

---

# ラック・アンド・ピニオン

アスミス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラック・アンド・ピニオン

### 【Nコード】

N6033Z

### 【作者名】

アスミス

### 【あらすじ】

とある青年が、異世界に連れ去られ、勇者として祭り上げられ、世界を救いだし、いろいろあつて元いた世界に逃げ帰ってきた話です。しかも帰ってきたはずの元いた世界も大きく変わっていて、すぐさま逃げ出したい主人公。そんな主人公が世界を闊歩するお話です。つたない文章ですがよろしく願います。

## 0話（前書き）

この小説は

「残酷な描写アリ」・「不定期投稿アリ」・「駄文の可能性アリ」  
と、3拍子がそろっている可能性があります。それでも大丈夫とい  
う方はご覧ください。

## 0話

昔、あるところに地球と呼ばれる星がありました。そこには「人間」といわれる種族がいて、そこでの生物の頂点を極め、繁栄していました。「人間」は「科学」という力を使い、自然を、動物を、社会を自身が生活しやすいように変化させてきました。それによって、「人間」は弱い種族ながら星を支配していました。

しかし、その繁栄も終わりを迎える事になります。後に「再構築」リ・コンストラクトと呼ばれる世界規模の激変。始まりは、世界各地に現れた黒い球体でした。突如上空に現れたそれは、人々の反応を待たずして行動を起こしました。「幻想体」と呼ばれる地球には本来存在しなかった生物　醜悪の塊　の大規模な出現、進撃。それらは「科学」では説明のつかない「魔法」としかいえない力を用いて人類に襲いかかりました。人類はそれに対し大量の兵士、科学兵器を導入し、立ち向かった。しかし、戦局は拮抗し、日に日に人類は疲弊していった。そんな中、人類サイドから今後の戦局を左右する新兵器が導入された。毒を持って毒を制す、つまり魔法を持って魔法を制したのだ。人類は敵サンプルから遺伝子を抽出し、胎児たちに埋め込み、組み換えた。倫理という抑制の鎖から解き放たれた人類はその力を兵器の新たな動力源または、成長促進による使い捨ての駒として用いた。この一手により人類サイドは大きく優勢に立ち、  
幻  
想体を撃ち破った。

開戦から10年という月日が流れ、人類の総力戦ともいえる戦いが幕を閉じた。長い絶望の終わり。本来ならこの喜ぶべき出来事は人類に次なる地獄を見せた。争いによって付けられた傷跡は科学文明の大半を壊し尽くし、人間サイドが造り出した新たな生命たちは

創造主に反旗を翻し。生き残った人類を蹂躪しはじめた。

「再構築」から数百年、人類は文明レベルをかつて中世と呼ばれる時代にまで下げ、かつては頂点にまでたつた生物のヒエラルキーからも脱落しながら生き残っていた。生き残りたちは指導者を筆頭に国を作り、人類に牙をなす敵たちに対抗していき  
そして今にいたる。

以上がこの書籍の著者であるアグリ・カムの生涯を懸けての研究結果である事をここに記す。

パタン　。

ふいに静かな書庫に、本を閉じる音が響き渡る。近くにいた人々は視線を一瞬だけ向けると、各々が読んでいた書物に目を戻した。

本を閉じた青年は肩を小刻みに揺らしながら、頭上を仰ぐ。な、な

「　　なんてこつたあああ」

異世界からの生還者であり、元勇者として世界を救った青年、水無みな月聖つぎせいや也は建物全体に響き渡る大声で嘆いたのだった。己の不遇に。

俺はこの時、知るよしもなかった。この後、先ほどの絶叫により書庫を追い出されることを

## 0 話（後書き）

ちよーちよーちよー書いていきますので、よろしかったらお願いします。

## 1話(前書き)

よろしくお願いします。

## 1話

はあ、はあっ

ただのしがない青年である水無月聖也<sup>みなつきせいや</sup>、もとい俺は森の中を颯爽と走っていた。なぜかって？

それは突如として、目の前に怪物が現れたからだ。現在持っているのはナイフと外套と食料や水の入っているバツクくらいだ。こんなんじゃとてもじゃないが太刀打ちできない、そう判断した俺は無様にも木々の間をすり抜けながらひたすら逃げていた。

そう、なぜ俺がこんな目に合っているかというと、それには山よりも高く海よりも深い理由がある。まあ、かいつまんで説明して行こう

\*\*\*

「おお、すげー。本物だ、本物」

今から2年前、俺は高校の仲の良かった友達と一緒に卒業旅行に行ったんだ。目的地はイギリス。これを区切りに暫く仲の良かった友達と別れることになるから、最後にでつかいことをしようということで海外旅行に決まったのだ。幸い、進学校のため英語はみんなほどほどにできた。まあ、本場の人たちに比べたら、明らかに舌足らずだったんだが……。まあ、そんなこんなでイギリスの名所を回った後、ここ、ストーンサークルに到着した。もともとこういったオカルト的なものが大好きだった俺は来るや否や、大いに興奮したね。今思うとあの時の友達の目の冷たいこと……。で、それは置いといて、

とにかく大はしゃぎしてたんだ。暫くは現地のガイドさんに頼んで仲間内で記念撮影なんかを行っていたんだが、そこから突如として様子が変わった。

ビュン                      ビュン、ビュン                      ビュン、ビュンビュン

突如として遺跡を中心に風が巻き起こったんだ。最初はそよ風だったその風も次第に速さをまし、範囲を拡大していった。周囲の人々のざわめきをBGMにしながら俺たちも指示に従いそこを離れることにした…、はずだった。そう、俺は何を血迷ったかその風の中心に向かつて進みだしたんだ。

「ちよ、何やってんだよ」

後ろから友達の静止の声が聞こえるが、俺は全くお構いなしに歩み続ける。次第に歩みは速度をまし、ついには全力疾走になっていった。湧き上がる呼吸を抑えながら近づいていく。なぜあの時こんな行動をとったかわからないが、体が勝手に動いてたんだ。未知なるものに対する好奇心からか、はたまた別の力か。で、目の前に来た時に気づいたんだがこの風はサークルを中心に吹いてるんじゃないかと、サークル内部に向かって風を吸い込んでいた。そのことに気付いた俺は体の自由を取り返したわけだが、時すでに遅し。自力では逃げ出せないほどの力で吸い寄せられ、俺の抵抗も虚しく吸い込まれてしまった。

「                      だい                      大丈                      大丈夫ですか？」

意識を失っていたであろう俺のもとに最初に聞こえたのは、美しいソプラノボイスだった。一瞬天使に声でもかけられたのかと思いつ、自分の死を認識する。天国って本当にあったんだ…、家族にも友達にも迷惑かけちゃったな…、そんなことを考えていた俺は声の主から発せられる次の言葉に人生最大の衝撃を受けた。

「え、えっと……大丈夫ですか、勇者様？」

これがすべての始まりだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6033z/>

---

ラック・アンド・ピニオン

2011年12月20日03時52分発行